



もっとも大切なもの...

E G G P L A N T

エッグプラント
那須ファミリー
ホームスクール通信
2006.4.1
No.21



先月、私の教会のメンバーたちや、その家族たち、また知り合いたちにいるいろいろなことが起こりました。腫瘍が発見され手術、以前から患っている病状の悪化、緊急入院や事故など・・・、亡くなられた方もおられます。それらのことを思うと「私たちにとってもっとも大切なものは何だろう。」と改めて考えさせられます。

思い返せば、今年に入って思い悩んだり、心配したり、楽しんだり、感動したりことが数々ありました。仕事のこと、人間関係、子どもたちの教育、社会で起こる暗い事件、話題のスポーツ、感動の映画、新しい出会い等々。一喜一憂しながら日々を過ごしている私たちです。でもそれらのほとんどは「最も大切なもの」ではないことに気づかされます。聖書に、パウロがギリシアで二千年前に語ったメッセージが記録されています。

「アテネ人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話したり、聞いたたりすることだけで、日を過ごしていた。」

(使徒十七章二十二節)

いつの時代でも人間は、最も大切なことを考えることを先延ばしにしたがるものです。そして、突然冷水をかけられるような出来事に見舞われるのです。それがいのちに関わるようなことであれば、それまでの関心事や心配は席を譲ります。明らかに優先順位が変わり、自分の姿勢を正されることとなります。聖書は次のように厳粛に語ります。

「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。」

(箴言七章二節)

創造主から離れて、一時的な楽しみに満足している人間に向けられた聖書のメッセージ。それは裁きの宣告ではなく、ゆるしの招きでした。神の義と愛が語られ、永遠に変わらない命を与えるために、準備万端整えて待っておられる創造主の胸の内が明かされています。

西はりまでの観測

M

僕は、今「星の色」について調べています。調べ始めたのは十月ころからで、だんだんいろいろなことがわかってきました。

最初僕は「惑星の色はどういう理由があってこんな色をしているのだろうか？」という疑問があったので、西はりま天文台の研究員さんとメールでやりとりしながら、いろいろと調べ方を教えてもらい、色の理由について調べていきました。

まずは色そのものについて調べていきました。絵の具を混ぜたりする実験などをして、色の三原色と光の三原色の違いを知り、その二つの三原色のどっちが、惑星の色を作っているのかななどを教えてもらいました。

そして子供だけで、西はりま天文台に行き、研究員さんといっしょに六十cm望遠鏡で星の観測をしました。

その後、特別なカメラで撮った写真を「Makaii」というソフトを使って、光の強さを測りました。そうして全ての写真を測光し、表を作り、目で見て予想した表と見比べて、三原色のそれぞれの色の割合によって、その惑星の色が分かるということを知りました。最近分かったことといえば、火星はなぜあんな赤色しているのかというと、赤い鉄さびで覆われているためだそうです。

この間、日本天文学会のジュニアセッションの見学をしてきました。来年には僕たちも調べたことを発表しようと思っています。

「こんなことしました！」 行事報告

三月

- 一日 H十二歳誕生日
- 四日 大阪感動探検隊(大阪「食」探検隊)
- 九日 映画「ナルニア国物語」鑑賞
- 十一日 大阪感動探検隊(大阪「食」探検隊)
- 十五日〜十六日 西はりま天文台
- 二十三日 E八歳誕生日
- 二十四日〜二十五日 バイブルキャンプ(信太山)
- 二十五日 生涯学習講座(茶道)
- 二十七日 日本天文学会ジュニアセッション(和歌山大学)
- 二十八日 適塾見学
- 三十一日 関西ホームスクーラー学芸会&交流会



Eの読書コーナー

ガリバリーよ行記

J・スウィフト

ぼくがガリバリーよ行記を読んで一番おもしろかったのは、むかしはたまごをまるいほうからわるのがきまりというところでした。けれども王さまのおじいさまが小さいころ、たまごをまるいほうからわってゆびをけがしたのでたまごをまるいほうからわることをきんじされたのであったほうがいいという者がいました。そこがぼくのおもしろかったところです。

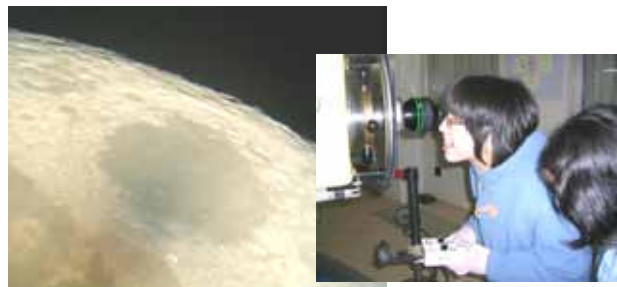
この本のあらすじは、レミユエルガリバーといういしやが「カモシカ号」の船長によびかけられて、ガリバーは東インドに行くことになりました。そこにあらしがきて、ガリバーは、小人の国へながされてしまいました。八つの約束をまもれば、ガリバーは、毎日一七二四人分の食べものと、のみものがあたえられます。小人の国へながされたガリバーは、せの高さが十五センチほどの人間を見ました。そしていろいろなできごとがはじまります。



友人たちと適塾の前で
わりあては一人一畳だった



望遠鏡でとった月の表面写真



初めてのバイブルキャンプ

H

私はバイブルキャンプで大阪市立信太山青少年野外活動センターに行きました。バイブルキャンプとは、中学生以上が対象の若者のキャンプです。だから私は初めてのキャンプでした。日曜学校のキャンプとは違い、メッセージも長く、夜も遅かったです。ゲーム大会やスポーツ大会もしました。スポーツ大会ではドッチボールやつなひきをしました。その後、落ち葉を集めて、おいもを焼きました。とってもおいしかったです。

メッセージは、分かりやすく話してくれたので、とてもよく分かりました。多くの聖書の箇所を開いたりして、教えてくれました。

もうひとつは、グループタイムで部屋のメンバーといっしょに自己紹介をしたり、メッセージの感想を言ったりしたり、いろんなことを話し合いました。

メッセージのクリスチャンやお世話してくださった多くのスタッフたちに感謝します。

また夏にもバイブルキャンプがあるので、行くのが待ち遠しいです。

編集後記

関西に住む、ホームスクーラーたちの交流が深まっています。お互いを覚えて祈りあったり、情報を交換したりしています。三十一日の学芸会では、那須家は「二年間を振り返って」と題して、パワーポイントを用いて報告しました。いずれチアマガジンで紹介されるかも……